

経営理念の一つに「女性の力を社会に生かす」を掲げるラッシュ・インターナショナル(名古屋市中区、<http://www.rush-i.com>)。「法令より幅広い」子育て支援に取り組む、2012年には愛知県のファミリー・フレンドリー企業表彰を受けた。制度よりも「仕事と育児を両立しやすい風土」づくりに努めている。

§ §

1995年に創業し、会社設立は2002年。倉田満美子社長自身が子育てしながらの起業だったので「子どもを産んですぐに働ける会社」が最初から念頭にあったという。

スタッフの多くが幼稚園児や小学生の母親だが、運動会、発表会、親子遠足など学校の行事、子どもの病気やケガなどで休んだり、出社が遅れることは全く構わない。

## 女性の力 を生かす



子育て支援企業



倉田満美子社長

＜メモ＞女性視点による販売促進から顧客管理、デザイン、データ入力などを行う。社員数は11人で男性は3人、女性は8人。女性既婚者は7人。

## データ入力など 在宅勤務がOK

休みや遅刻日の回数、回数に制限はない。在宅勤務もOKだ。例えば、データ入力のような仕事であれば事務所でできる社員を高く評価する。逆に理由もなく、効率悪い仕事の仕方では残業が続き、低く評価される。

多くの仕事を短時間で効率良く進め、早く帰宅できる社員を高く評価する。逆に理由もなく、効率悪い仕事の仕方では残業が続き、低く評価される。

### ケース22 ラッシュ・インターナショナル

### 仕事と育児両立しやすい風土



子どもを職場に連れてくることも

## 社員教育にも力 モラルある人材に

また、社内での私用の電話も禁止していない。ガス工事の連絡など、日常生活で必要な連絡もある。それだけではなく、子どもが小学校から帰った後、子どもとのコミュニケーションはとて大切

時でも、母親に連絡して出掛けると、母親も安心して仕事に打ち込める。特別な用事がなくても「学校から帰った」という一言でも構わない。ほんのささいなことでも、子どもとのコミュニケーションはとて大切

「学校の夏休み期間は特に、子どもが職場にいるのは日常的な光景」だという。忘年会にもスタッフの家族を呼ぶ。

だ。もちろん基本的なこととして、スタッフのモラル教育はきちんと行う。そこで長電話をするような、モラルの低い社員教育はしていないという。この風土を守り続けていくかが今後の課題。